

平成30年12月19日

第2回 歯科口腔保健の推進に係る  
う蝕対策ワーキンググループ

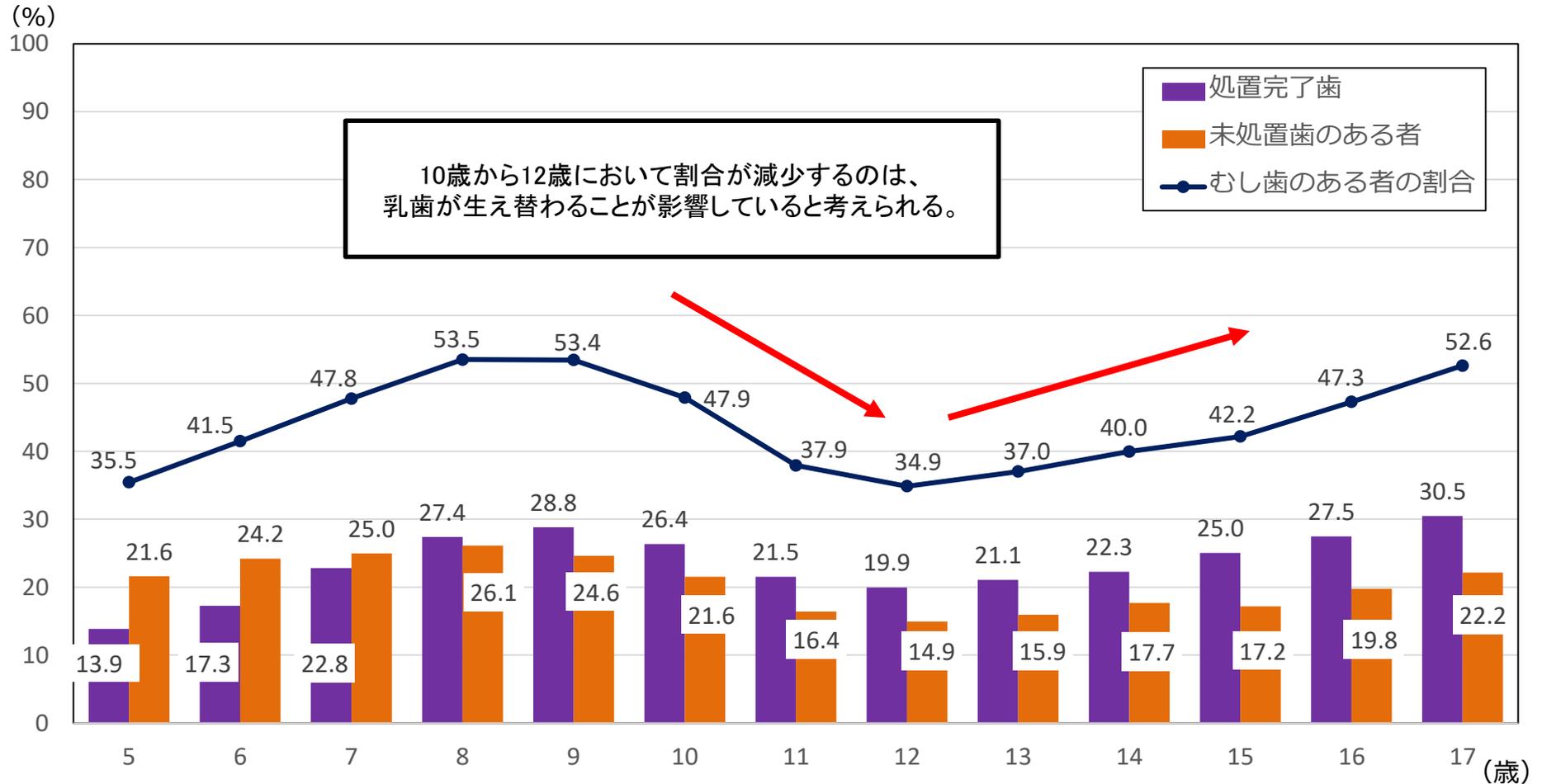
資料1

# う蝕罹患の現状等②

医政局歯科保健課  
歯科口腔保健推進室

# 年齢別むし歯（う歯）の者の割合等

○ 「むし歯」の者の割合を年齢別にみると、8歳が53.5%と最も高くなっている。また、処置完了者の割合は、8歳以降、未処置歯のある者の割合を上回っている。



出典：平成29年度 学校保健統計調査（文部科学省）

# 幼児期・学齢期における疾病・異常の被患率等

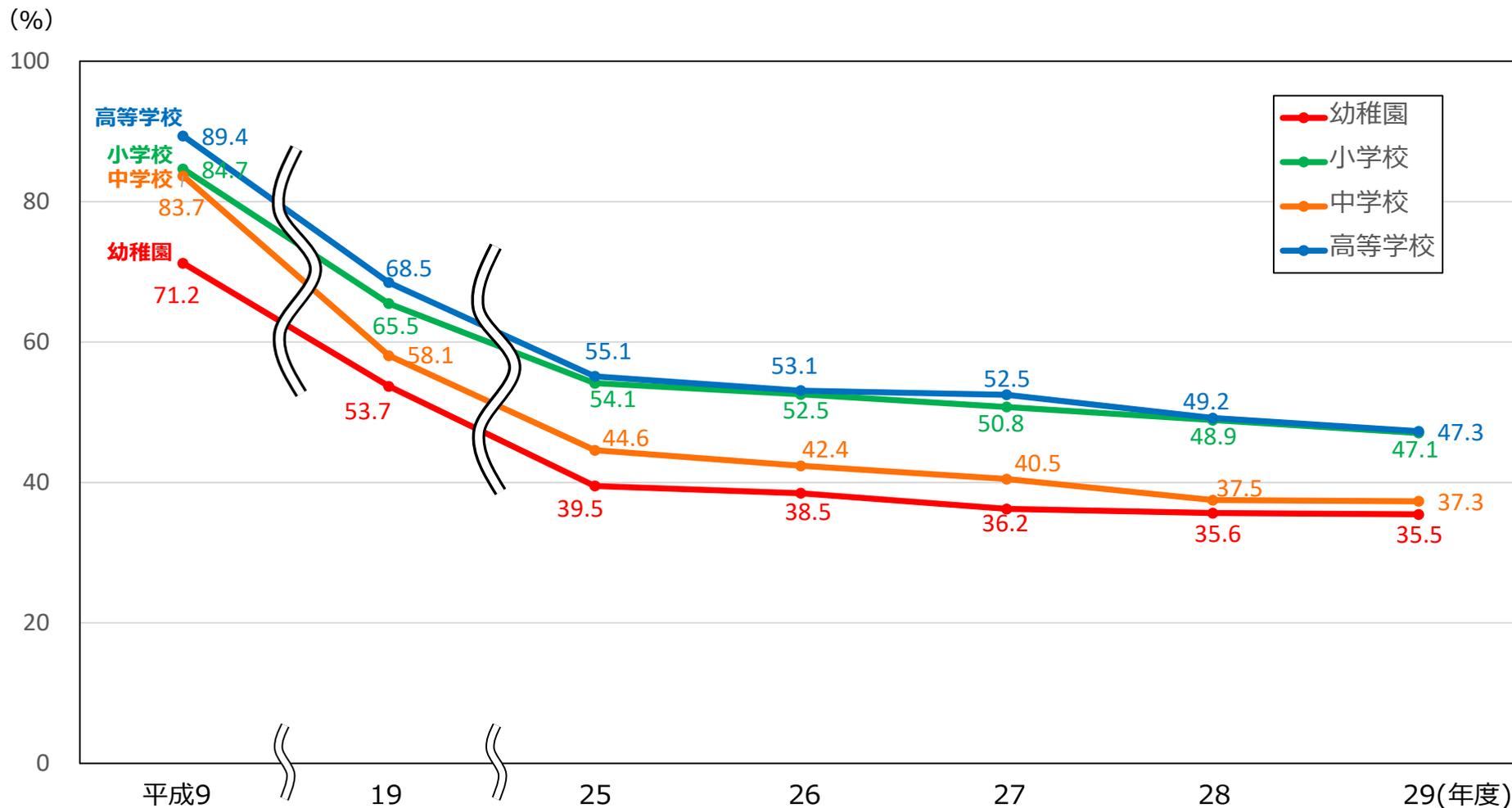
- 幼稚園・小学校においては「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高い。
- 中学校・高等学校においても「むし歯（う歯）」の者の割合は、「裸眼視力1.0未満の者」に次いで高い。

区 分	幼 稚 園	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	
60%以上 ~ 70%未満				裸眼視力1.0未満の者	
50 ~ 60			裸眼視力1.0未満の者		
40 ~ 50		むし歯（う歯）		むし歯（う歯）	
30 ~ 40	むし歯（う歯）	裸眼視力1.0未満の者	むし歯（う歯）		
20 ~ 30	裸眼視力1.0未満の者				
10 ~ 20		鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患		
1 ~ 10	8 ~ 10			鼻・副鼻腔疾患	
	6 ~ 8		歯・口腔のその他の疾病・異常 耳疾患		
	4 ~ 6		眼の疾病・異常 歯列・咬合	歯垢の状態 歯肉の状態 歯列・咬合	
	2 ~ 4	歯列・咬合 鼻・副鼻腔疾患 耳疾患 歯・口腔のその他の疾病・異常 アトピー性皮膚炎	ぜん息 アトピー性皮膚炎 歯垢の状態 心電図異常	心電図異常 蛋白検出の者 ぜん息 アトピー性皮膚炎 脊柱・胸郭・四肢の状態	眼の疾病・異常 蛋白検出の者 心電図異常 耳疾患 アトピー性皮膚炎
	1 ~ 2	ぜん息 眼の疾病・異常 口腔咽喉頭疾患・異常 その他の皮膚疾患	歯肉の状態 栄養状態 口腔咽喉頭疾患・異常 脊柱・胸郭・四肢の状態	栄養状態	ぜん息 脊柱・胸郭・四肢の状態 歯・口腔のその他の疾病・異常

出典：平成29年度 学校保健統計調査（文部科学省）

# 学校におけるむし歯（う歯）の者の割合の推移

○ 平成29年度の「むし歯」の者の割合（処置完了者を含む）は、幼稚園35.45%、小学校47.06%、中学校37.32%、高等学校47.30%となっており、全ての学校段階で前年度より減少しており、中学校及び高等学校においては過去最低である。



出典：学校保健統計調査（文部科学省）

【定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健における目標】

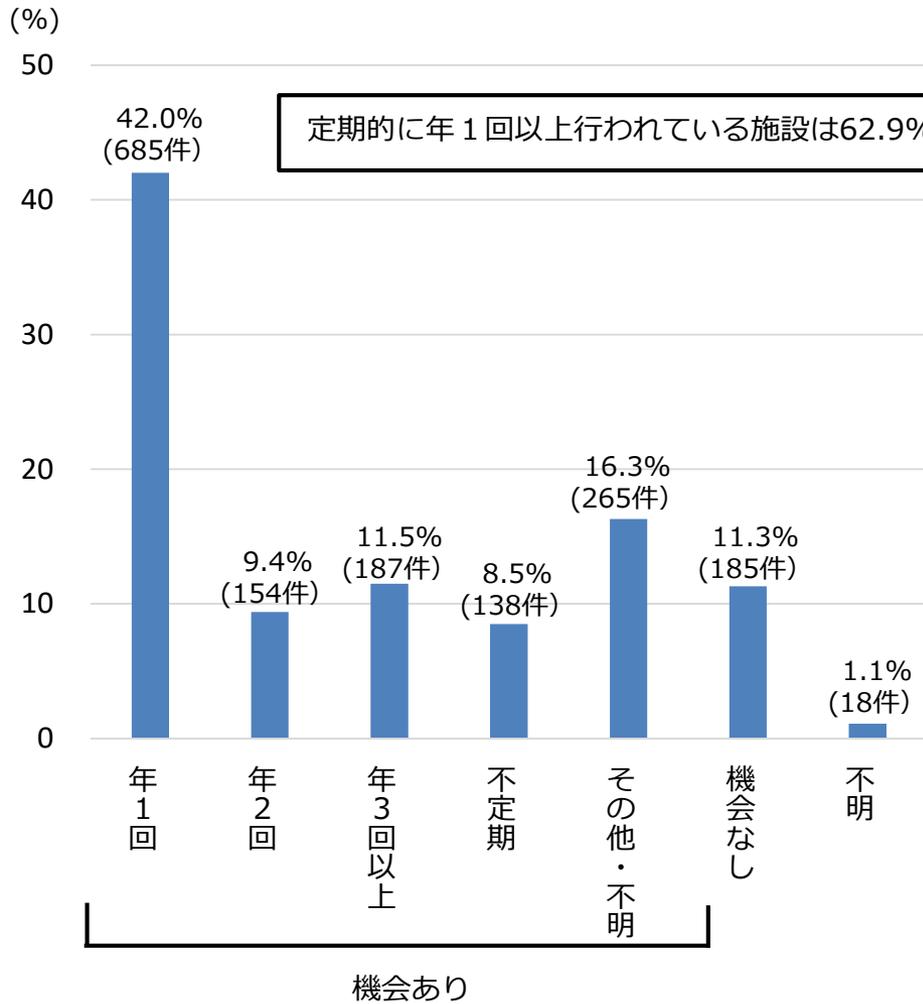
項目	策定時の現状	直近の実績値	目標
障害者支援施設及び障害児入所施設での定期的な歯科検診実施率の増加	66.9% (平成23年)	62.9% (平成28年)	90% (平成34年度)

- 定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健対策を検討する際には、今後、ますます高齢者人口が増加していくことを踏まえ、地域包括ケアシステムにおける効果的・効率的な歯科保健サービスを提供する必要がある。
- 口腔内の環境の改善が全身の健康状態にも寄与することを踏まえ、要介護者等の口腔内の評価に必要な視点を整理し、口腔内の実態把握を適切に行う。
- 障害者（児）への定期的な歯科検診及び歯科医療の提供のため、国、都道府県、市区町村のそれぞれの単位で、関係部局と連携した施策・取組を推進する。

# 障害（児）者入所福祉施設における歯科検診や歯科保健指導の機会

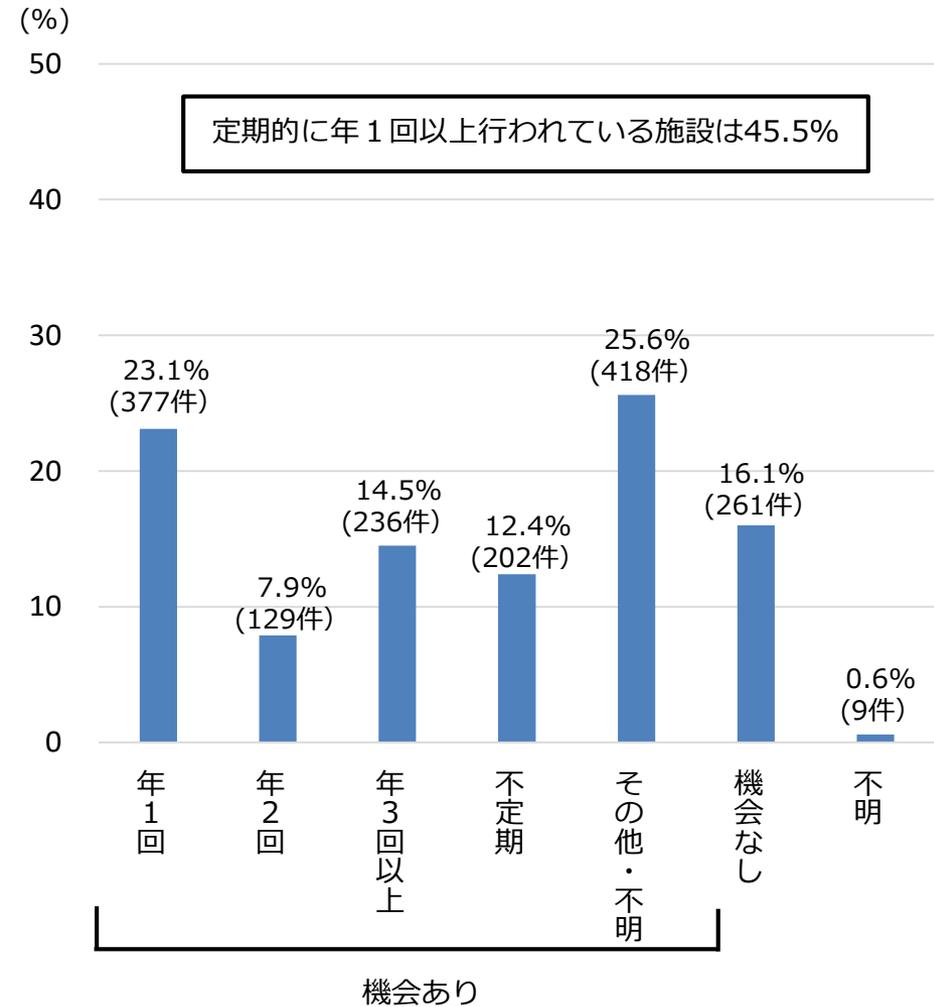
## 歯科医師による歯科検診を受ける機会

※調査対象：全国の障害（児）者福祉入所施設2,530施設  
有効回答1,632施設（65.2%）



## 歯科専門職による歯科保健指導を受ける機会

※調査対象：全国の障害（児）者福祉入所施設2,530施設  
有効回答1,632施設（65.2%）



予防活動等の実施の有無とその内容	施設数	実施割合
予防活動等をしている	1497	91.7%
食後の歯磨きの時間をとっている	1363	83.5%
職員が歯磨きの状態をチェックしている	1158	71.0%
定期的にフッ化物洗口をしている	40	2.5%
定期的にフッ化物塗布を受けさせている	96	5.9%
職員への歯科保健に関する研修会の開催	366	22.4%
その他	217	13.3%
予防活動等をしていない	135	8.3%